

2013 年 5 月 16 日
社会保障審議会医療保険部会

人生最期の医療に関する調査の結果について

NPO 法人 高齢社会をよくする女性の会
理事長 樋口 恵子

世界トップレベルの長寿国日本において、最近ようやく人生最期の医療・介護のあり方への論議が高まってまいりました。その論議の中心には、専門家だけでなく、かけがえのない命の主人公である当事者が据えられてほしいと思います。

私たちは、「おまかせ」でなく自分の最期と真剣に向き合いたいと思います。

市民・当事者が人生最期の医療のあり方について、どのように捉えているかを調査し、これからの最期の医療措置のあり方に参画していきたいと考え、人生最期の医療に関して、全国の 10 歳代～90 歳代の男女を対象とした調査を実施しました。

調査の結果、次の 3 点が明らかとなりました。

- 1 延命処置をしてほしくないという意識は、年齢や職業（医師、看護師）、看取りの経験など、最期の医療に関する知識や経験により相違がある。
- 2 最期の医療について 4 つの延命措置について尋ねた。心肺蘇生は 71.3%、人工呼吸器装着 86.6%、胃ろう 85.4%、鼻チューブ 86.9% が希望していない。
- 3 最期の医療について「書面にしている」人は 1 割に満たないが、「書面にしたい」と思っている人は 6 割近い。年齢別では、「書面にしている」人は 80 歳代以上 13.6%、70 歳代 10.7% である。

今回の調査対象は国民一般から見れば、いわば「意識の高い」層がより多く含まれているかもしれません。気が付いた人々から、命の当事者として、専門家や家族におまかせでなく、自分の意思を表明することが大切と思っています。それは社会全体の倫理性と、個人の選択の多様性の上に立つのはもちろんのことです。

私たち NPO 法人高齢社会をよくする女性の会は、この調査に基づき、まず自分の最期について語り合い、書面にすることを提唱したいと考えています。そのことを通して長寿の総仕上げとしての最期が、みどり文化の形成につながることを願っています。

(注) 本年 3 月上旬、学会発表のため、2 月末締切ですでに結果を公表していますが、その後も多数、調査票が届き 5,390 人に達しました。この方々のご意見を生かしたく再集計しました。全体の傾向に変わりはありません。

人生最期の医療に関する調査

2013年5月

NPO法人 高齢社会をよくする女性の会

調査の目的・対象・時期・方法

- (1) 調査目的: かけがえのない命の主人公である私たちは、「おまかせ」でなく自分の最期と真剣に向き合いたい。そこで、市民・当事者(医師、看護職、介護関連職を含む)は、人生最期の医療のあり方についてどのように捉えているかを調査し、医療・介護のあり方を探ろうとした
- (2) 調査対象: 全国の10歳代～90歳代 の 5,390人
(女性4,031人 男性1,359人)
- (3) 調査時期: 2012年12月～2013年3月
- (4) 調査方法: 郵送による配布・回収、FAX回収、e-mail回収
インターネット(ホームページ上のアンケートフォームに入力)

調査事項

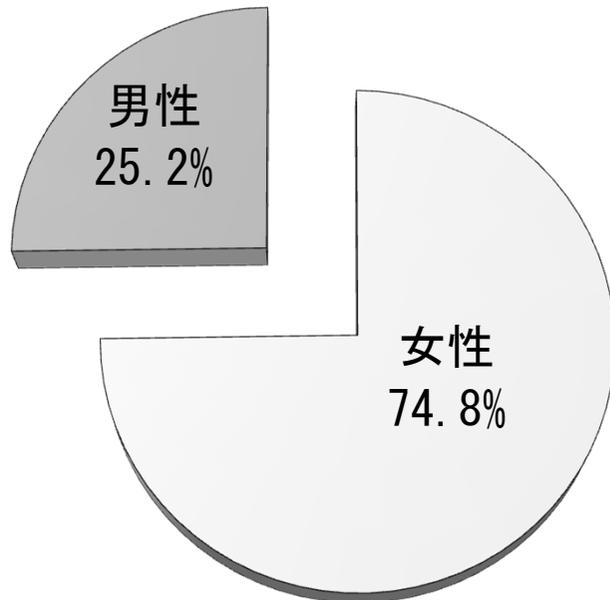
- 1 あなたが意思表示できない状態になり、さらに治る見込みがなく全身の状態が極めて悪化した場合、鎮痛剤を使ってほしいか心肺蘇生等をしてほしいか。
- 2 あなたが意思表示できない状態になり、さらに治る見込みがなく食べられなくなった場合、延命のための栄養補給を望むか。
- 3 最期の医療について望むことを家族か信頼できる人と話し合ったことはあるか。
- 4 あなたが望む最期の医療について書面にしているか。
- 5 家族を看取った経験はあるか。

回答者(5,390人)の性別・年齢

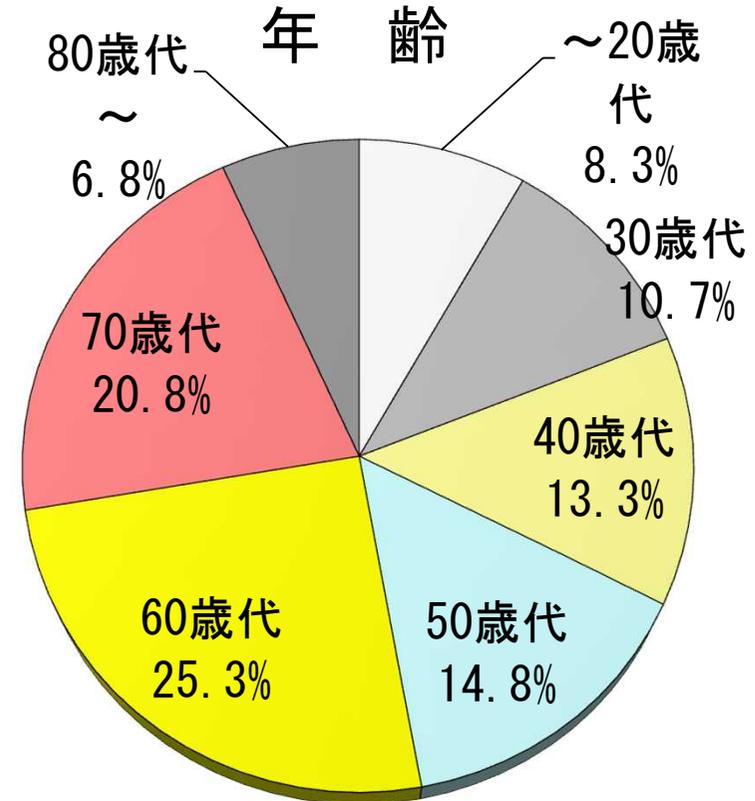
女性(4,031人)男性(1,359人)

60歳以上が52.9%

性別



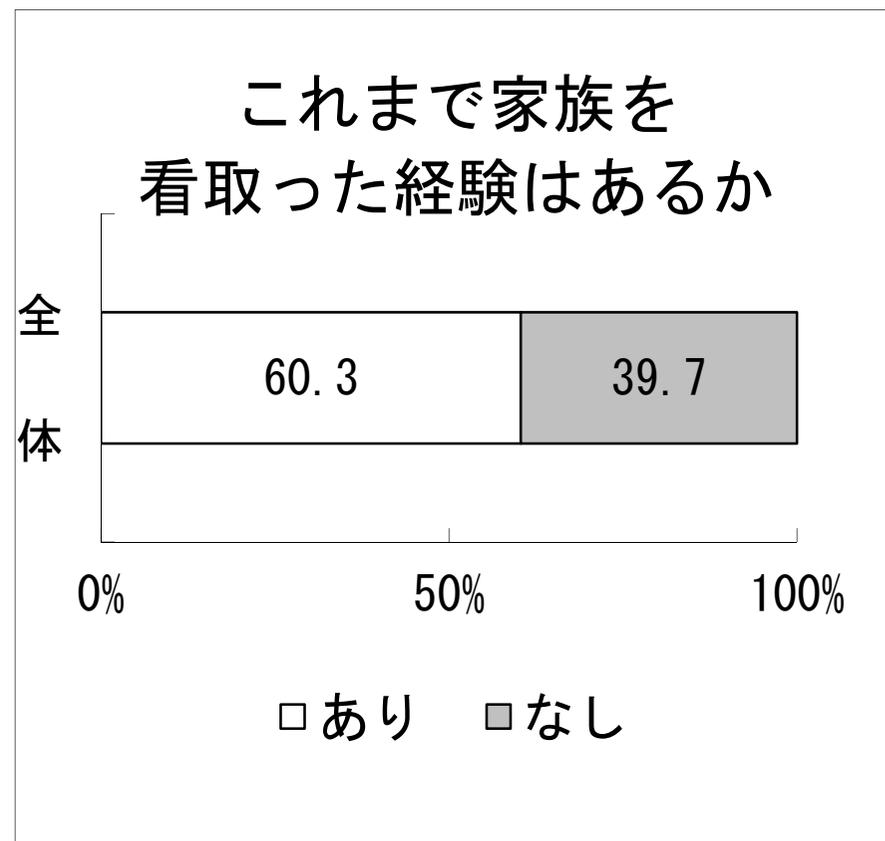
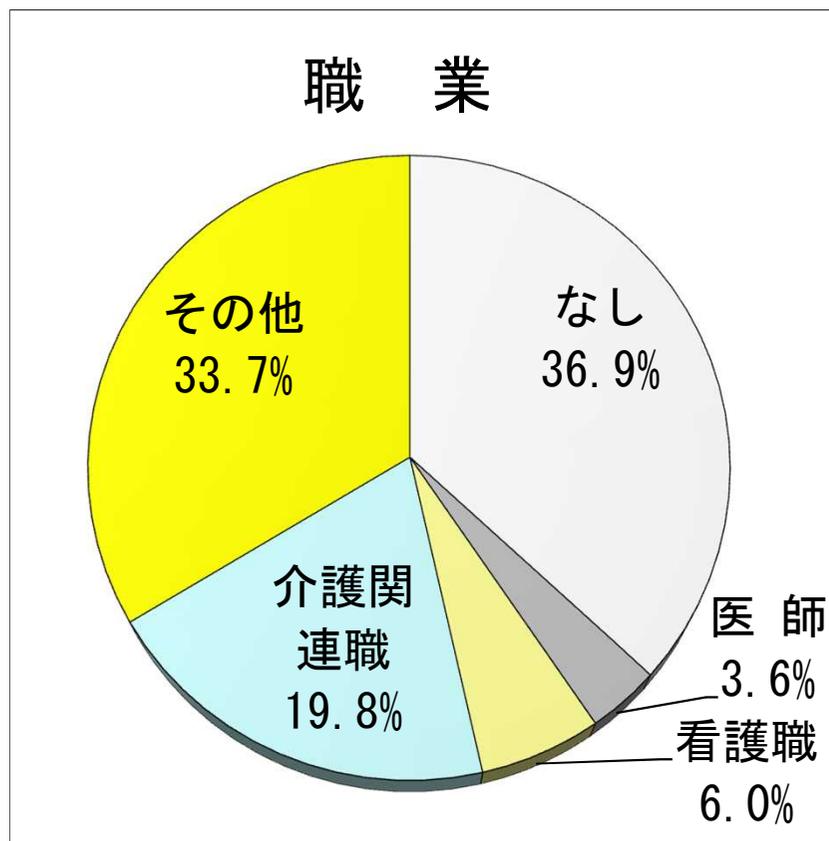
年齢



回答者の職業・看取り経験

無職、「その他」、介護関連職
看護職、医師の順

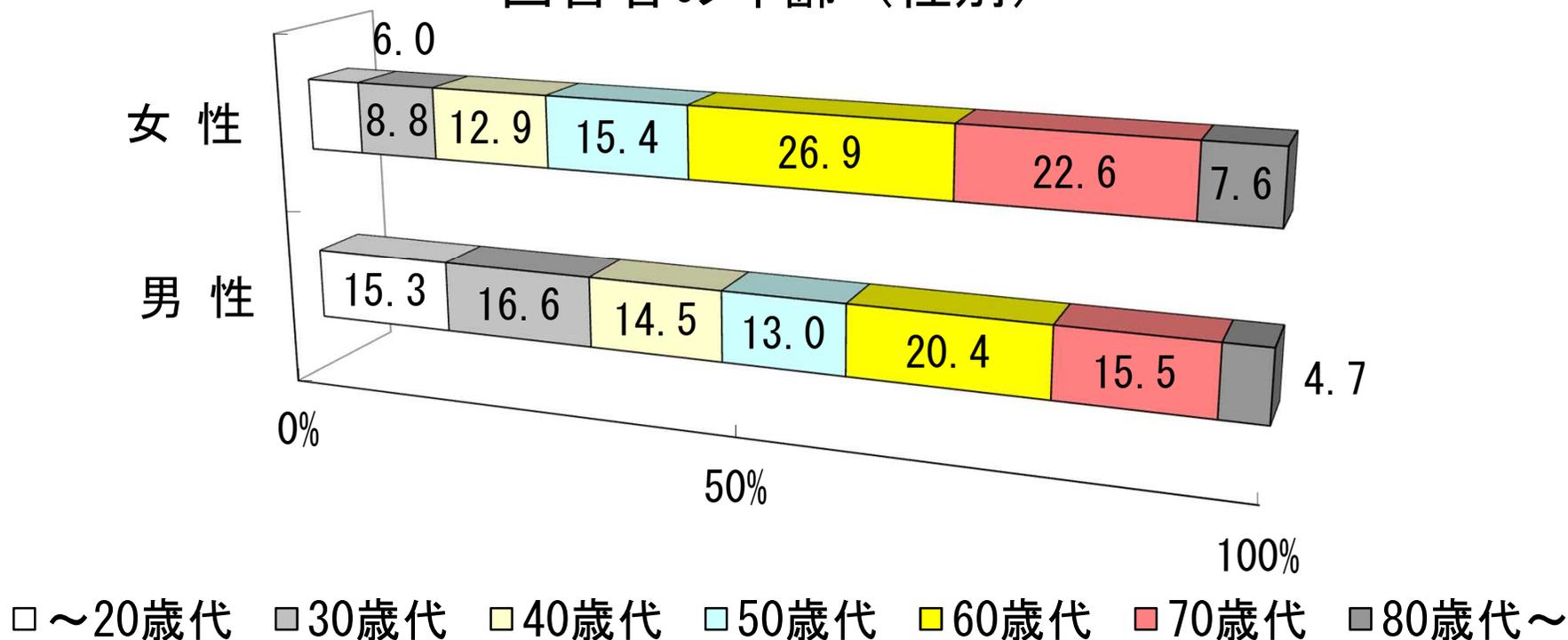
これまで家族を
看取った経験あり 6割



回答者(5,390人)の年齢(性別)

女性(4,031人): 60歳以上 57.1%
男性(1,359人): 49歳以下 46.4%

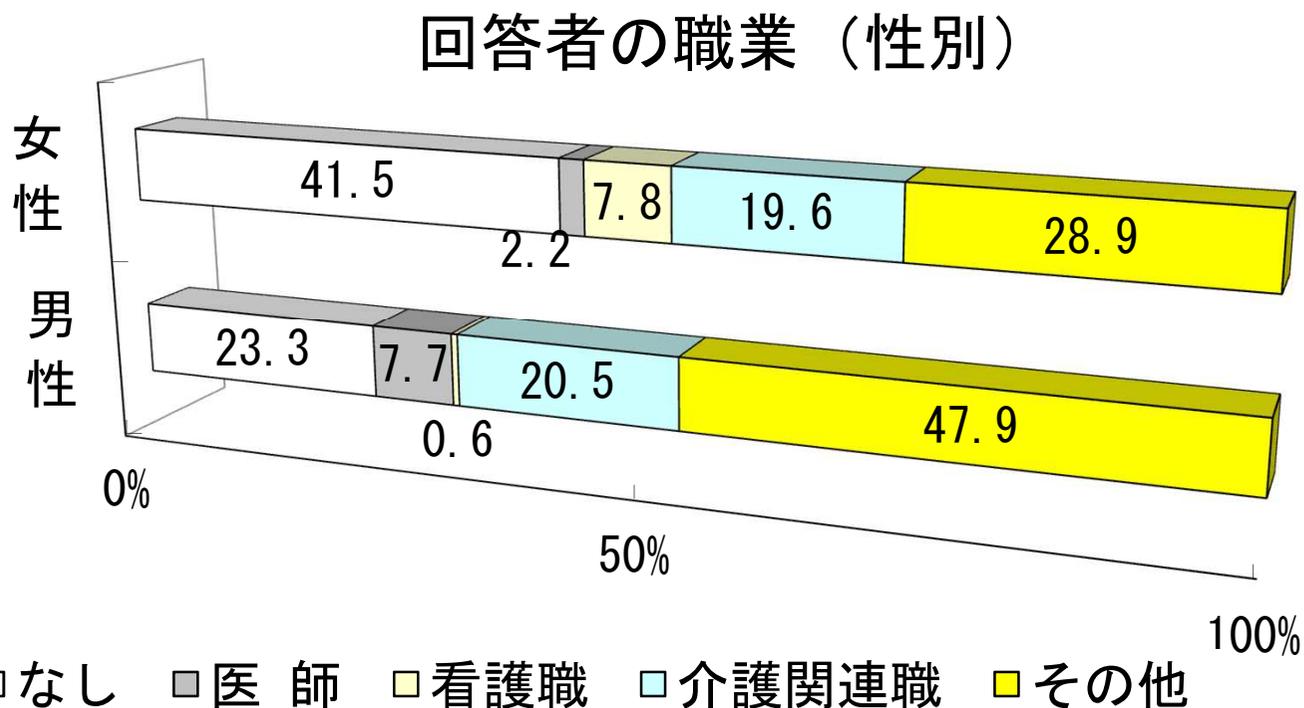
回答者の年齢(性別)



回答者(5,390人)の職業(性別)

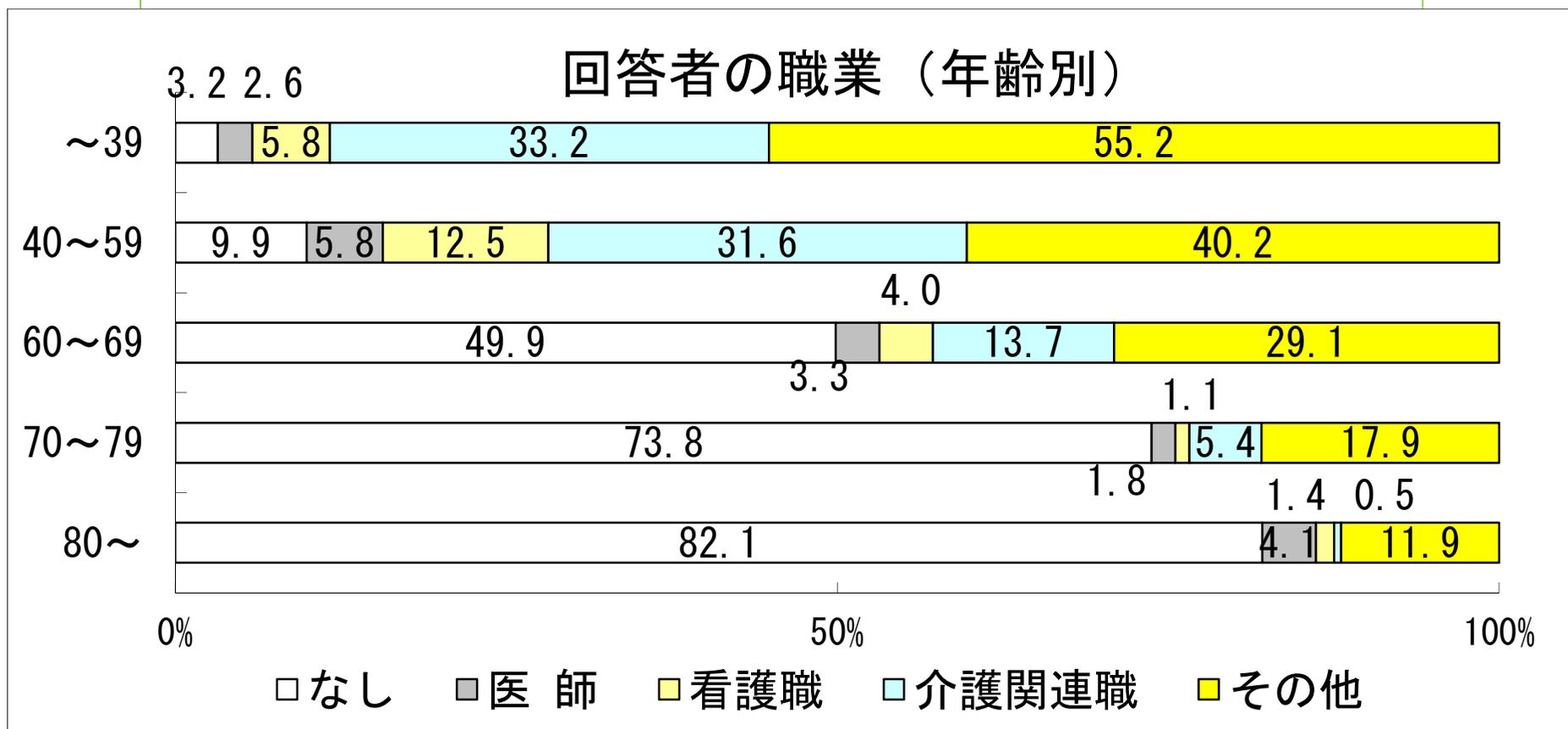
女性：無職4割強、「その他」3割弱、次いで介護関連職、看護職、医師の順
男性：「その他」約半数、無職と介護関連職2割台、医師と看護職1割未満

「その他」とは、会社員、公務員、研究者、僧侶、福祉関係者、自営業者、学生等



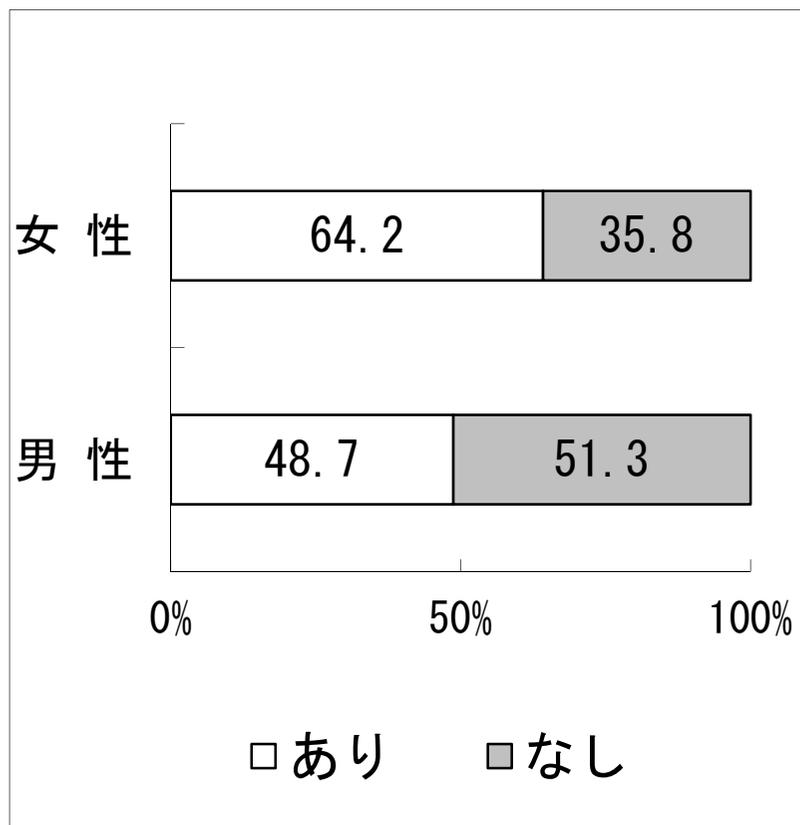
回答者（5,390人）の職業（年齢別）

30歳代以下：「その他」5割強 介護関連職 3分の1
 40・50歳代：「その他」4割 介護関連職 3割
 60歳代：無職 半数 「その他」3割
 70歳代以上：無職 7～8割

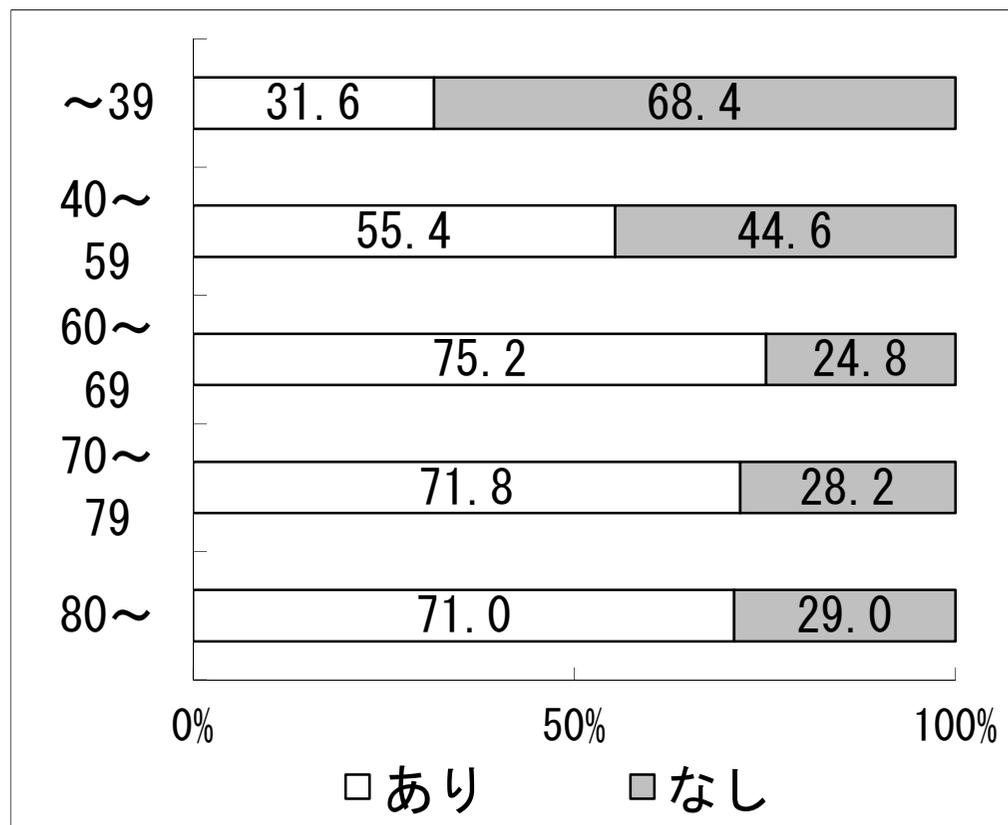


家族を看取った経験の有無 (性別・年齢別)

経験あり: 高齢回答者の多い
女性のほうが高率



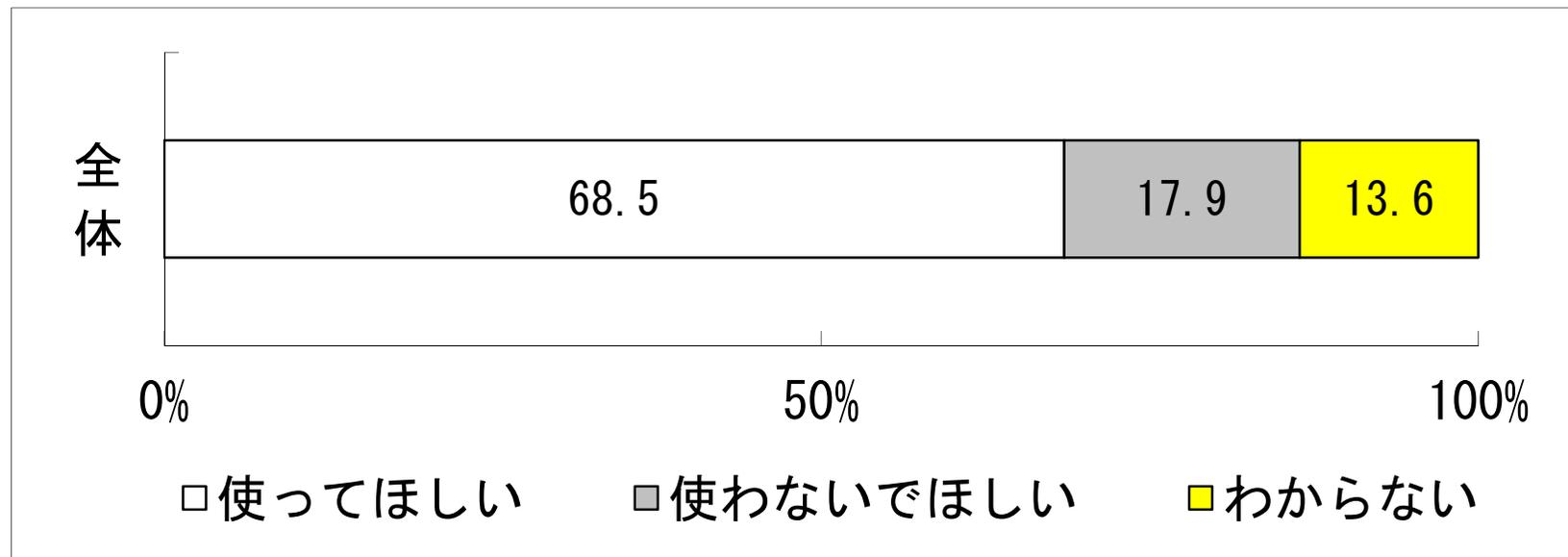
経験あり: 39歳以下は約3割
60歳以上は7割台



1-1 あなたが意思表示できない状態になり、さらに治る見込みがなく、全身の状態が極めて悪化した場合鎮痛剤を使ってほしいか（全体）

「強い鎮痛剤を使用すると意識が低下する場合は多い」ことを付記して質問

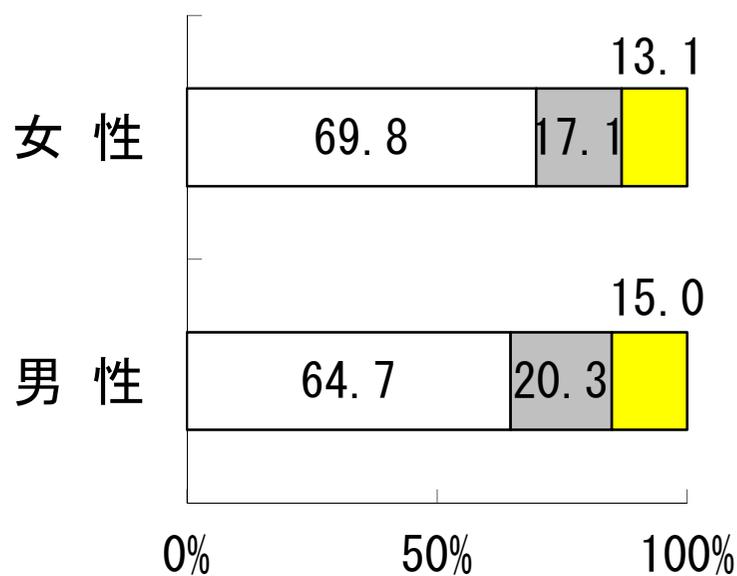
使ってほしい: 68.5% 使わないでほしい: 17.9% わからない: 13.6%



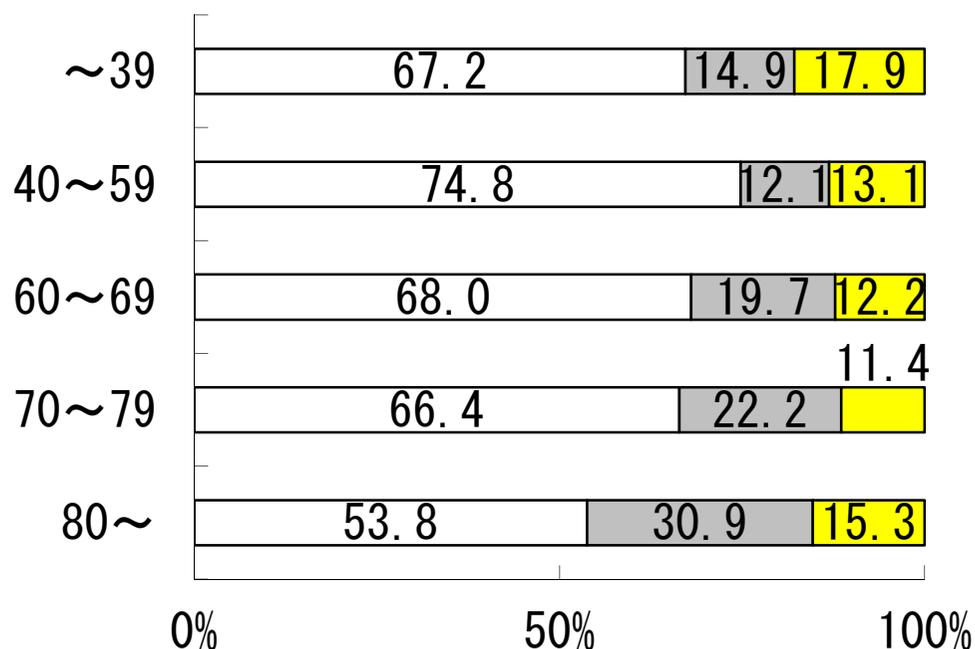
1-1 あなたが意思表示できない状態になり、さらに治る見込みがなく、全身の状態が極めて悪化した場合鎮痛剤を使ってほしいか（性別・年齢別）

使ってほしい：女性が多め

使ってほしい：80歳以上は少ない



- 使ってほしい
- 使わないでほしい
- わからない

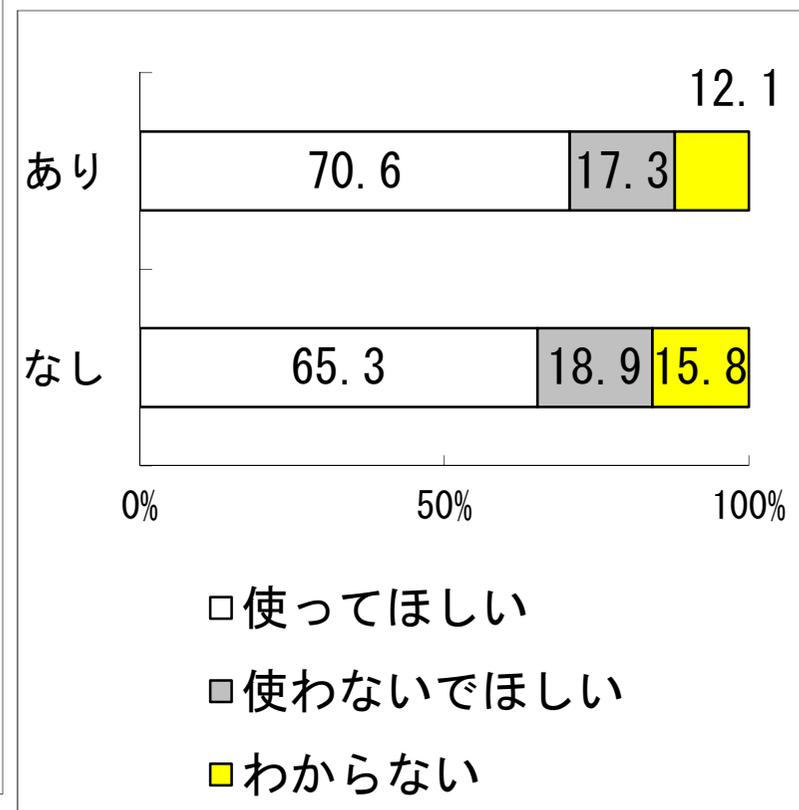
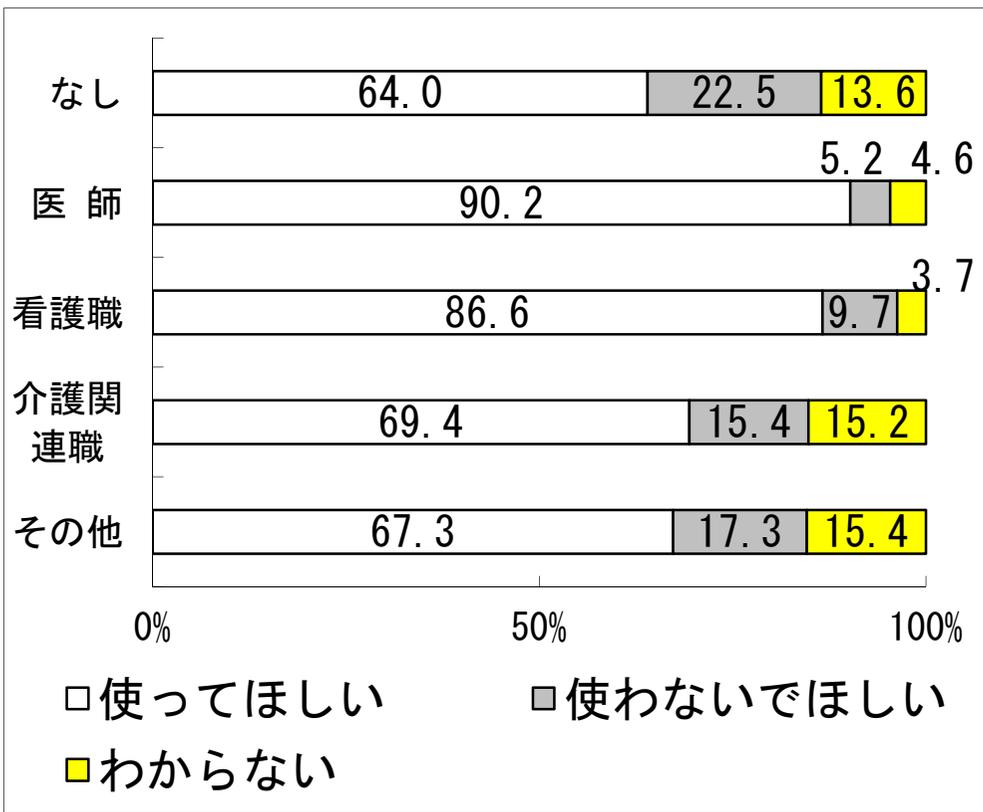


- 使ってほしい
- 使わないでほしい
- わからない

1-1 あなたが意思表示できない状態になり、さらに治る見込みがなく、全身の状態が極めて悪化した場合鎮痛剤を使ってほしいか（職業別・看取り経験の有無別）

使ってほしい: 医師と看護職は9割前後
それ以外の職業と大差

使ってほしい:
看取り経験ありは 7割

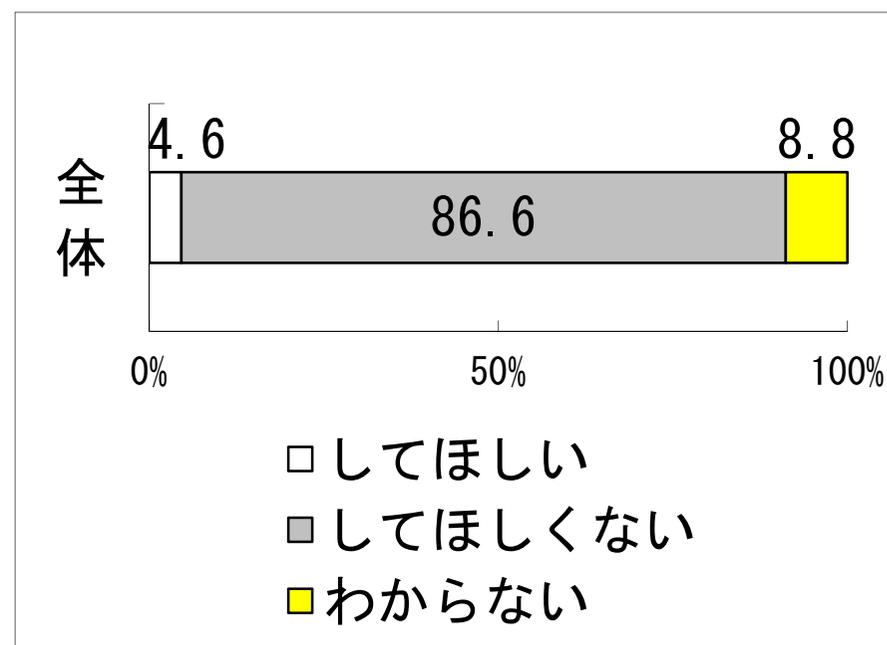
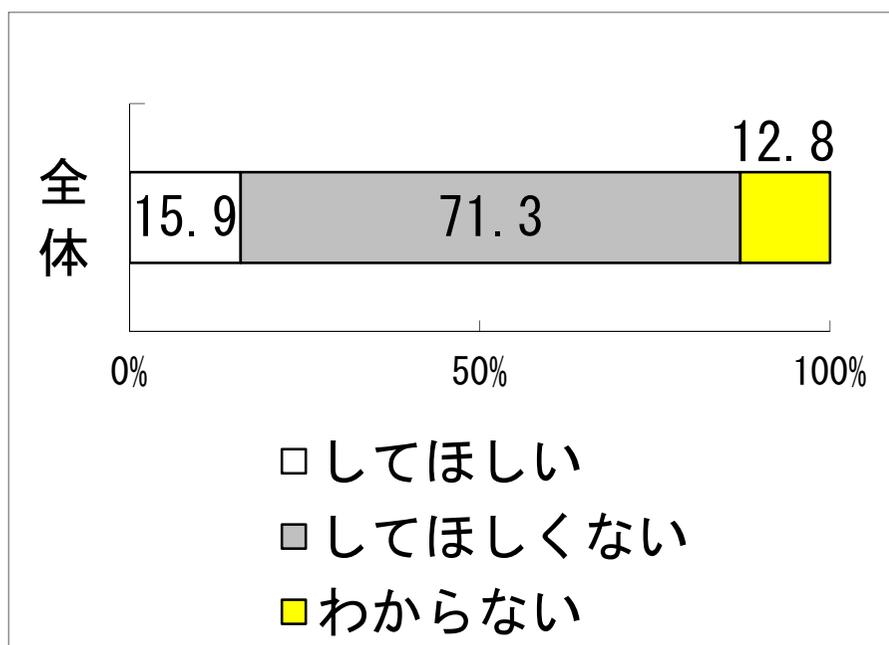


1-2 あなたが意思表示できない状態になり、さらに治る見込みがなく、全身の状態が極めて悪化した場合

心臓マッサージなどの心肺蘇生をしてほしいか
延命のための人工呼吸器を装着してほしいか (全体)

心肺蘇生: してほしくない 71.3%
してほしい 15.9%

人工呼吸器装着: してほしくない 86.6%
してほしい 4.6%

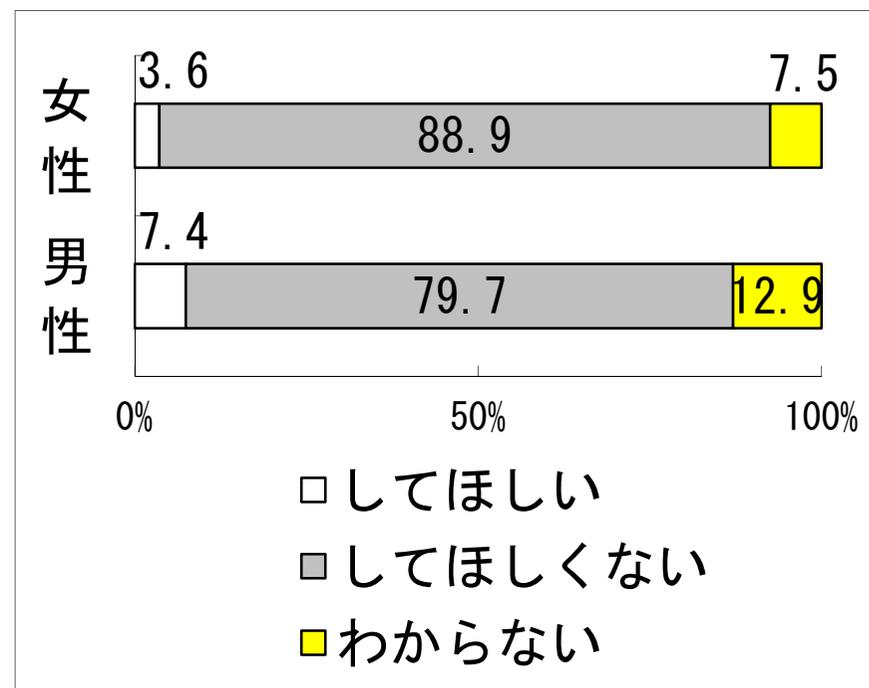
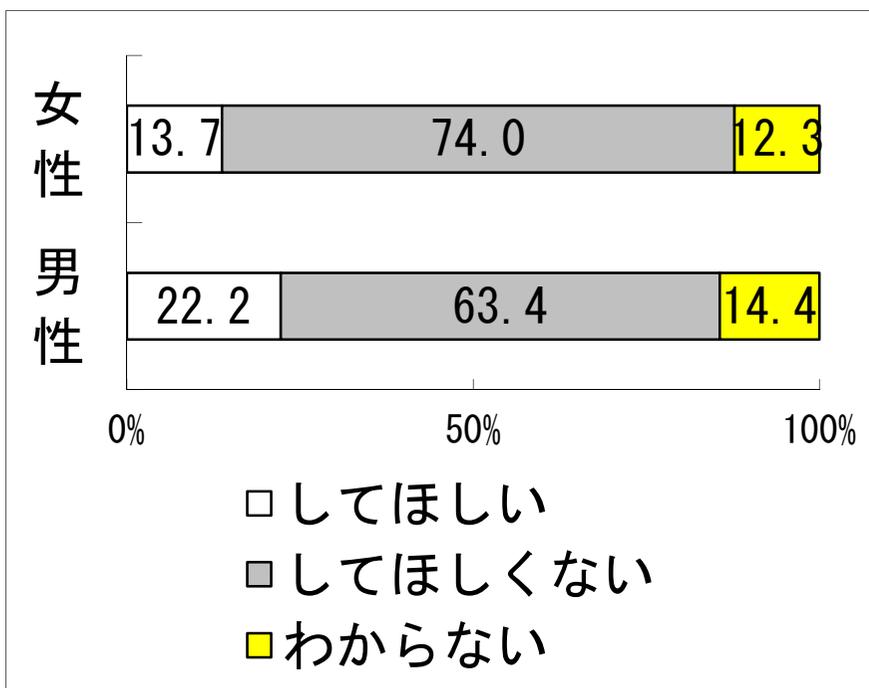


1-2 あなたが意思表示できない状態になり、さらに治る見込みがなく、全身の状態が極めて悪化した場合

心臓マッサージなどの心肺蘇生をしてほしいか
延命のための人工呼吸器を装着してほしいか（性別）

心肺蘇生 してほしくない
女性と男性の差 11ポイント

人工呼吸器 装着してほしくない
女性と男性の差 9ポイント

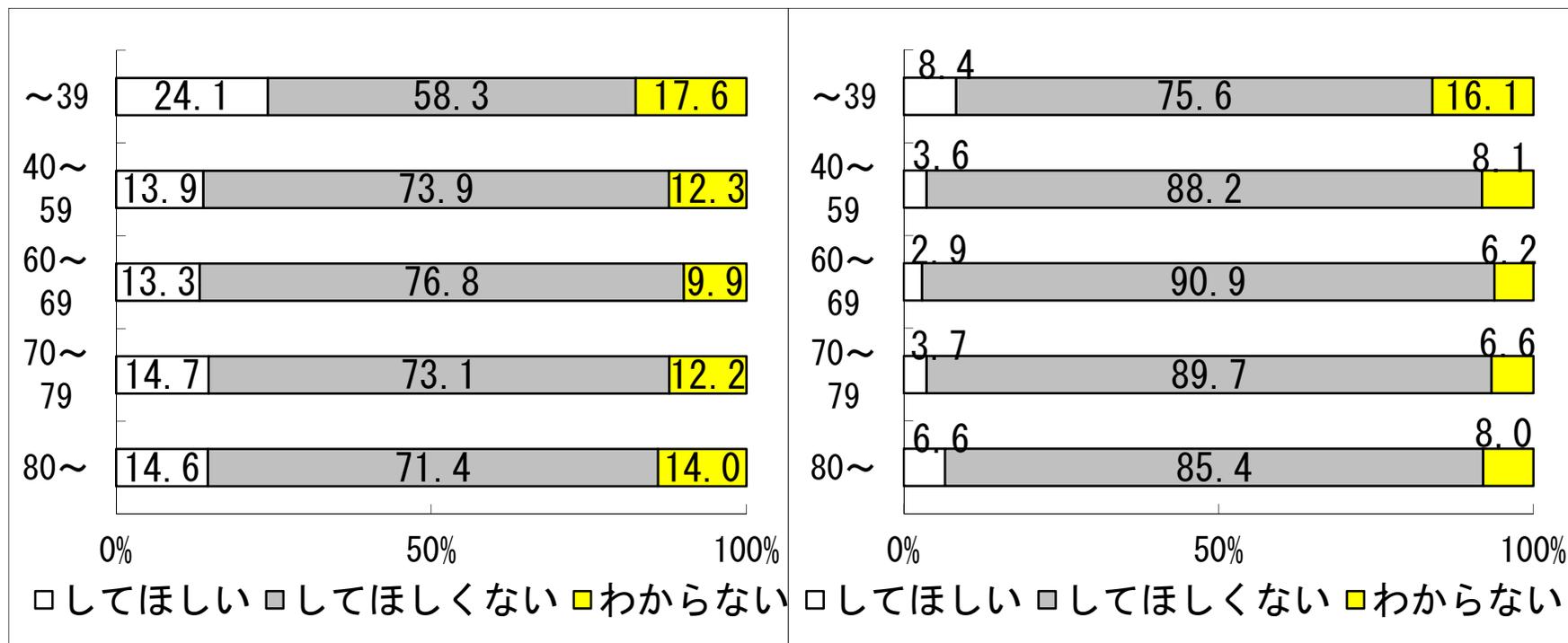


1-2 あなたが意思表示できない状態になり、さらに治る見込みがなく、全身の状態が極めて悪化した場合

心臓マッサージなどの心肺蘇生をしてほしいか
延命のための人工呼吸器を装着してほしいか (年齢別)

心肺蘇生 してほしい39歳以下4分の1
してほしくない 40歳以上7割台

人工呼吸器 装着してほしくない
40歳以上は9割前後

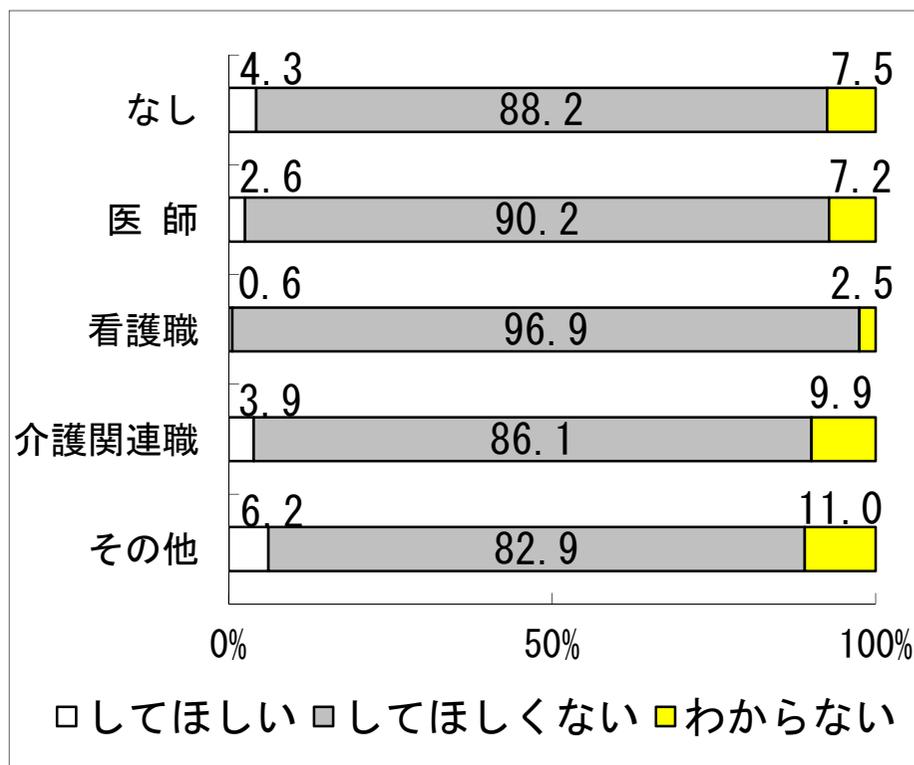
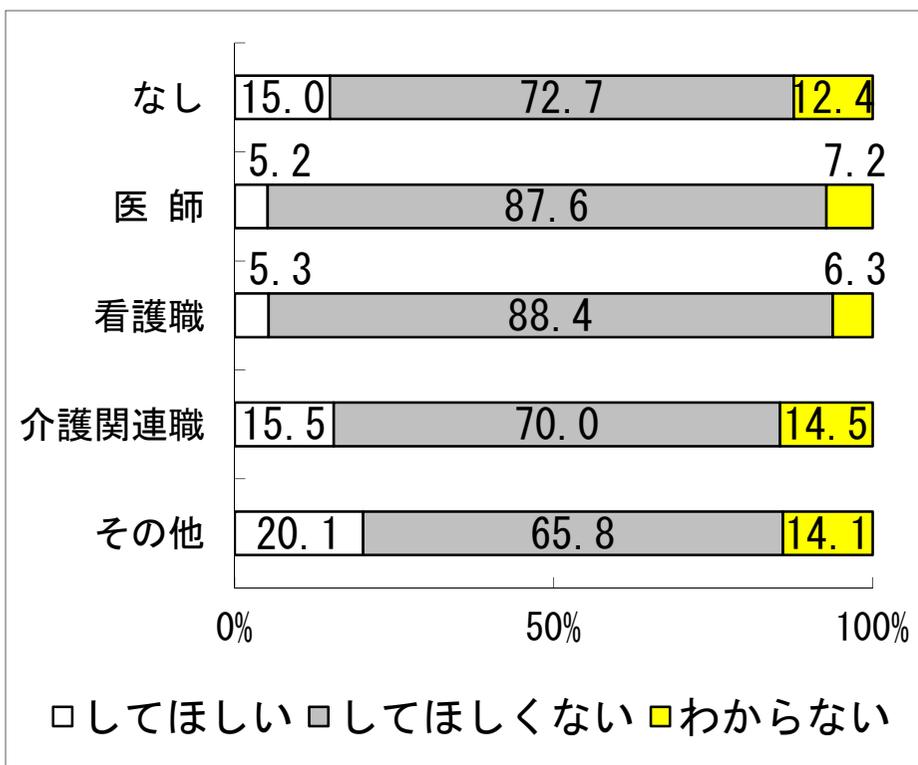


1-2 あなたが意思表示できない状態になり、さらに治る見込みがなく、全身の状態が極めて悪化した場合

心臓マッサージなどの心肺蘇生をしてほしいか
 延命のための人工呼吸器を装着してほしいか (職業別)

9割近くの看護職と医師は
 心肺蘇生をしてほしくない

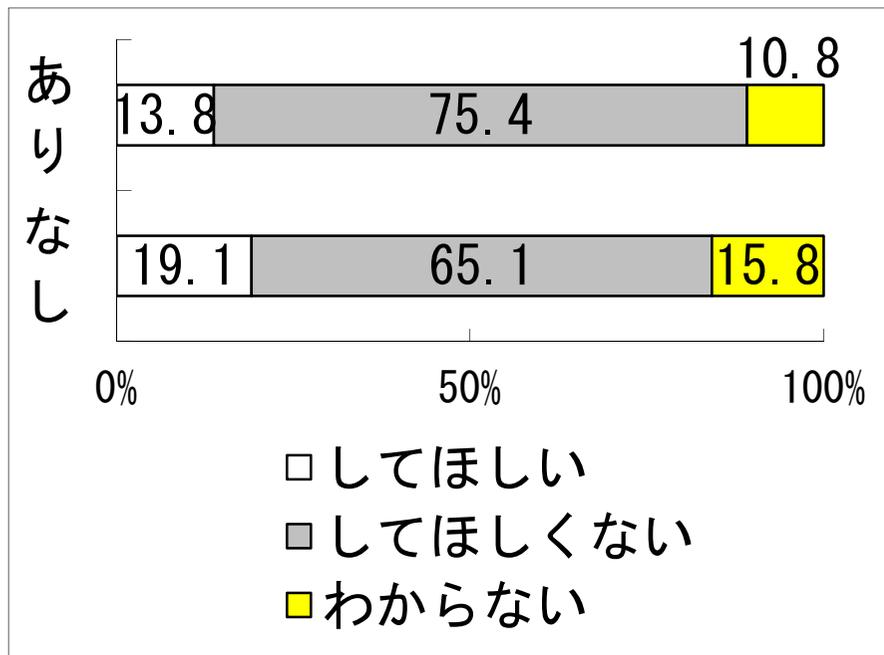
とりわけ看護職は
 人工呼吸器を装着してほしくない



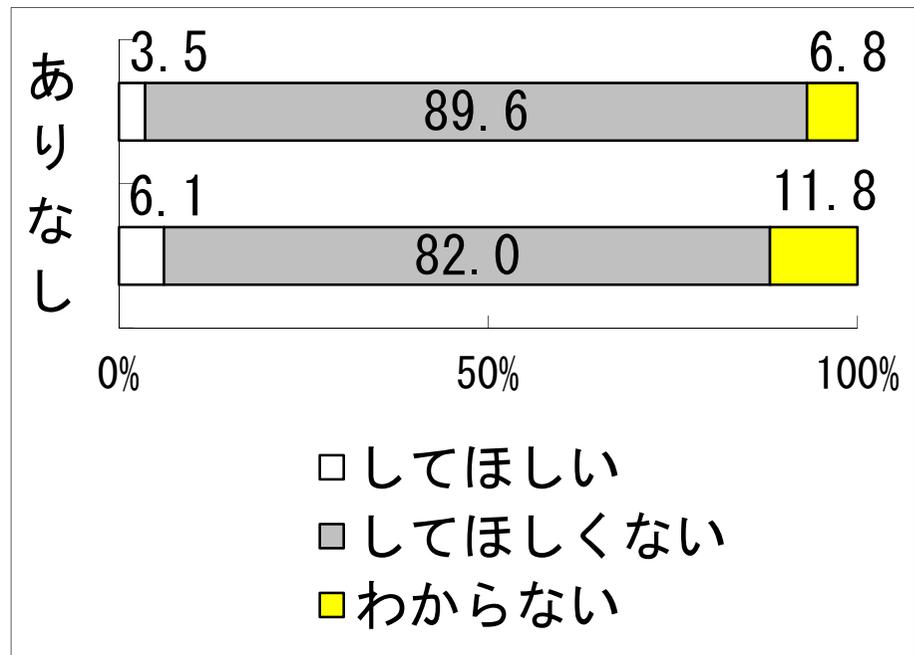
1-2 あなたが意思表示できない状態になり、さらに治る見込みがなく、全身の状態が極めて悪化した場合

心臓マッサージなどの心肺蘇生をしてほしいか
延命のための人工呼吸器を装着してほしいか(看取り経験別)

心肺蘇生 してほしくない
経験ありとなしの差 10.3ポイント



人工呼吸器装着 してほしくない
経験ありとなしの差 7.6ポイント

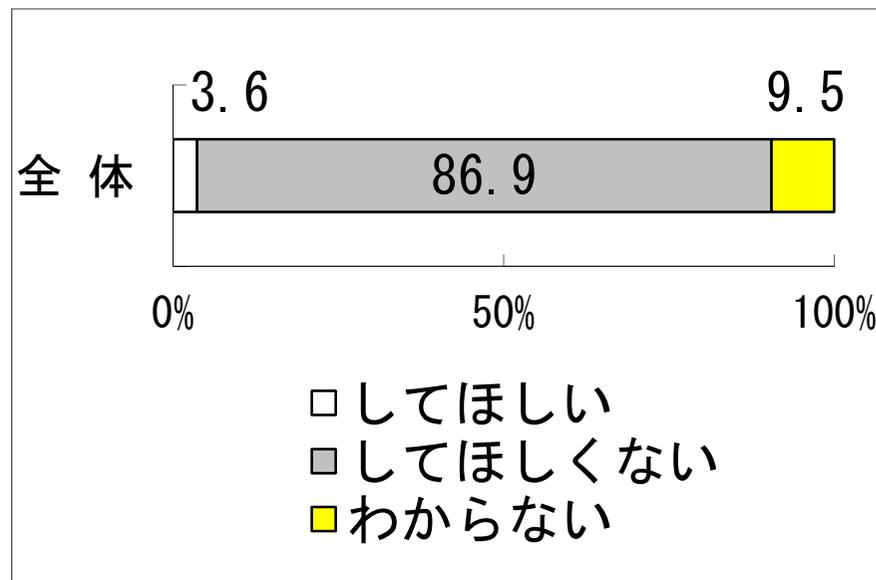
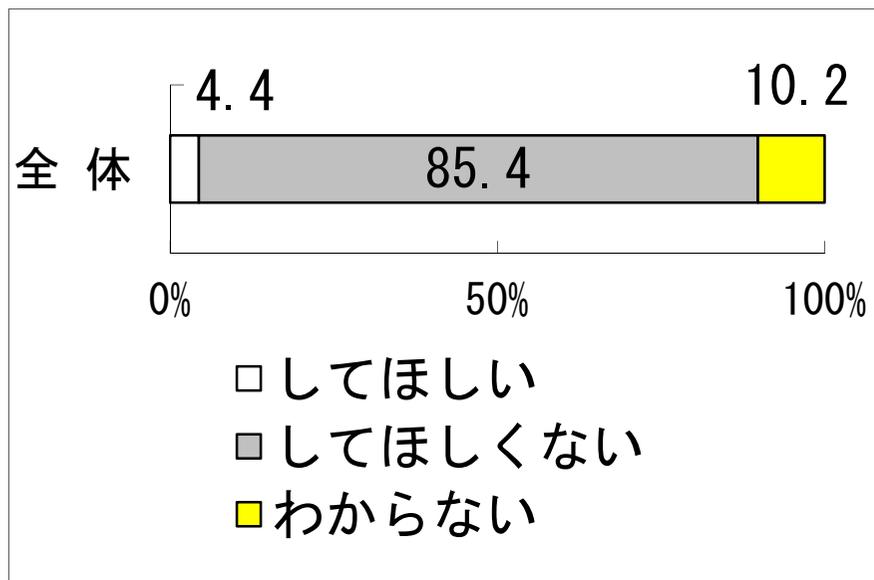


2 あなたが意思表示できない状態になり、さらに治る見込みがなく食べられなくなった場合

延命のために胃ろうによる栄養補給を望むか
延命のため鼻チューブによる栄養補給を望むか（全体）

胃ろう してほしくない 85.4%
わからない 10.2%

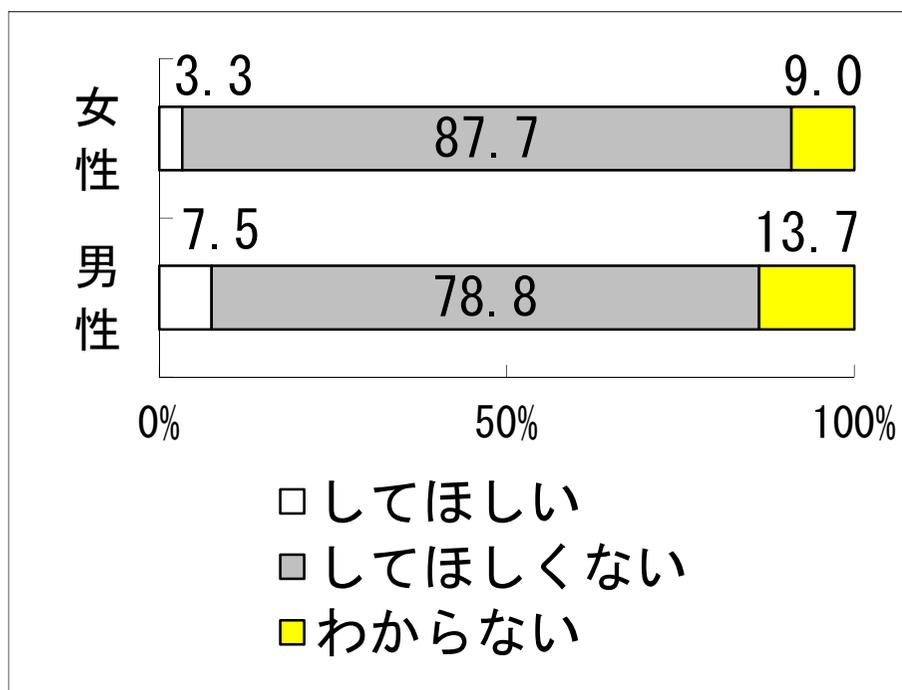
鼻チューブ してほしくない 86.9%
わからない 9.5%



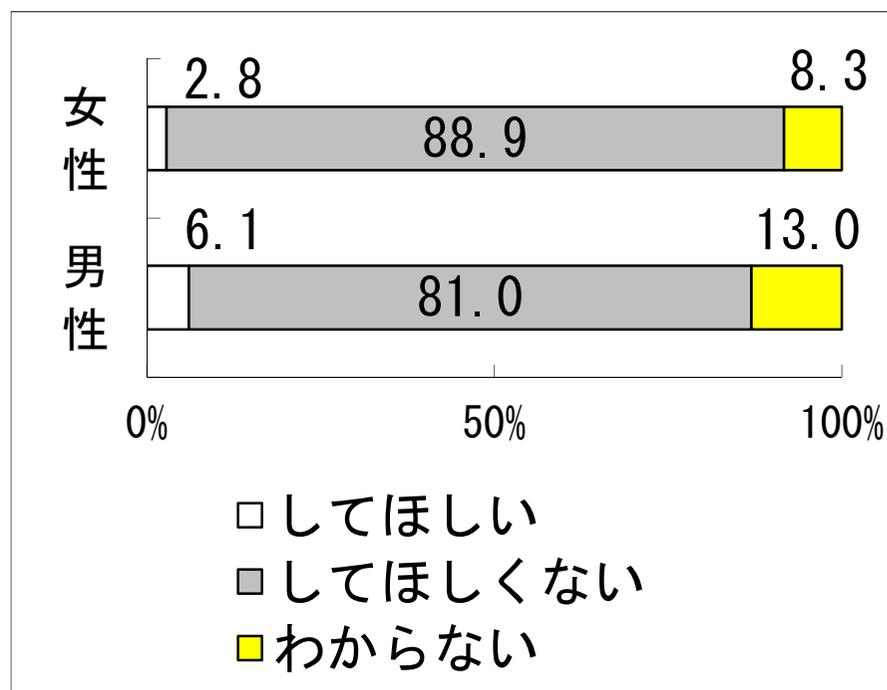
2 あなたが意思表示できない状態になり、さらに治る見込みがなく食べられなくなった場合

延命のために胃ろうによる栄養補給を望むか
延命のために鼻チューブによる栄養補給を望むか（性別）

胃ろう してほしくない
女性と男性の差 8.9ポイント



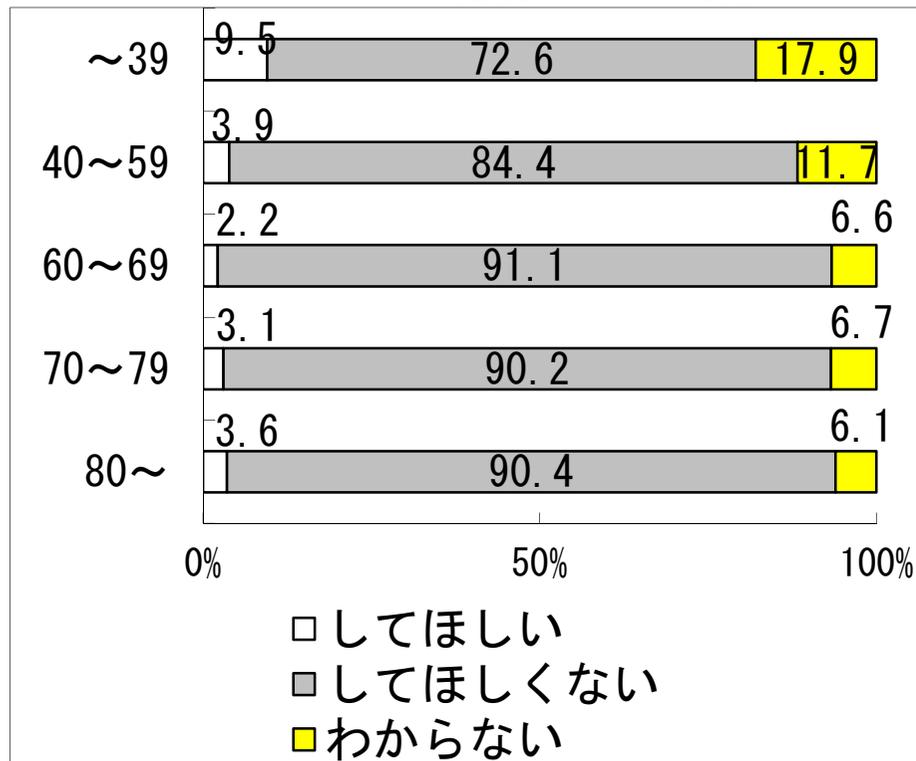
鼻チューブ してほしくない
女性と男性の差 7.9ポイント



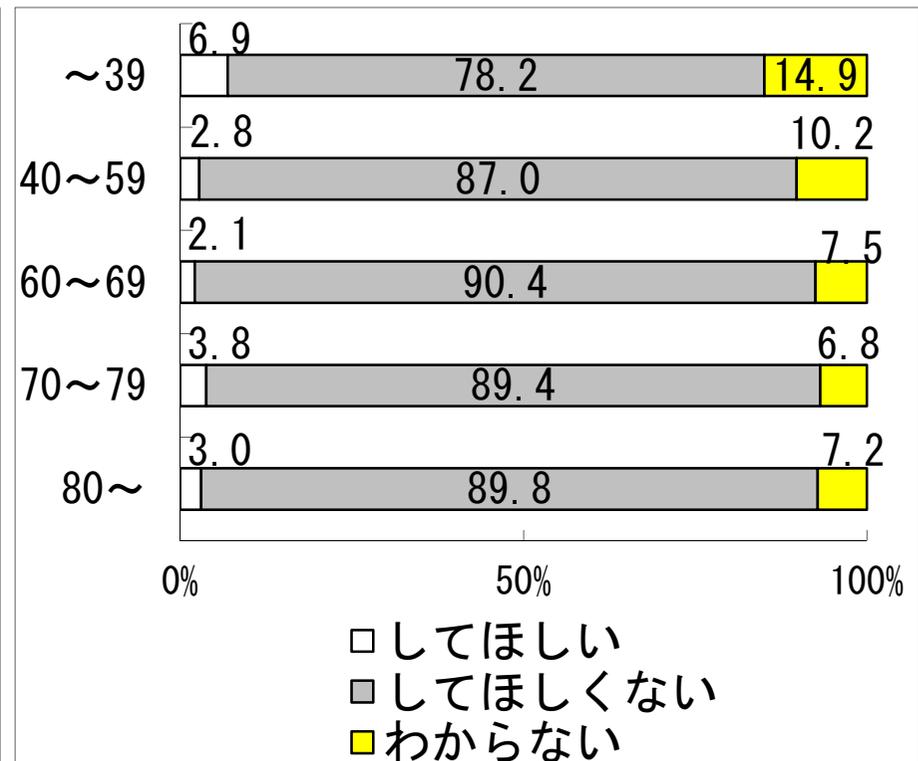
2 あなたが意思表示できない状態になり、さらに 治る見込みがなく食べられなくなった場合

延命のために胃ろうによる栄養補給を望むか
延命のために鼻チューブによる栄養補給を望むか（年齢別）

胃ろう してほしくない
60歳以上は9割



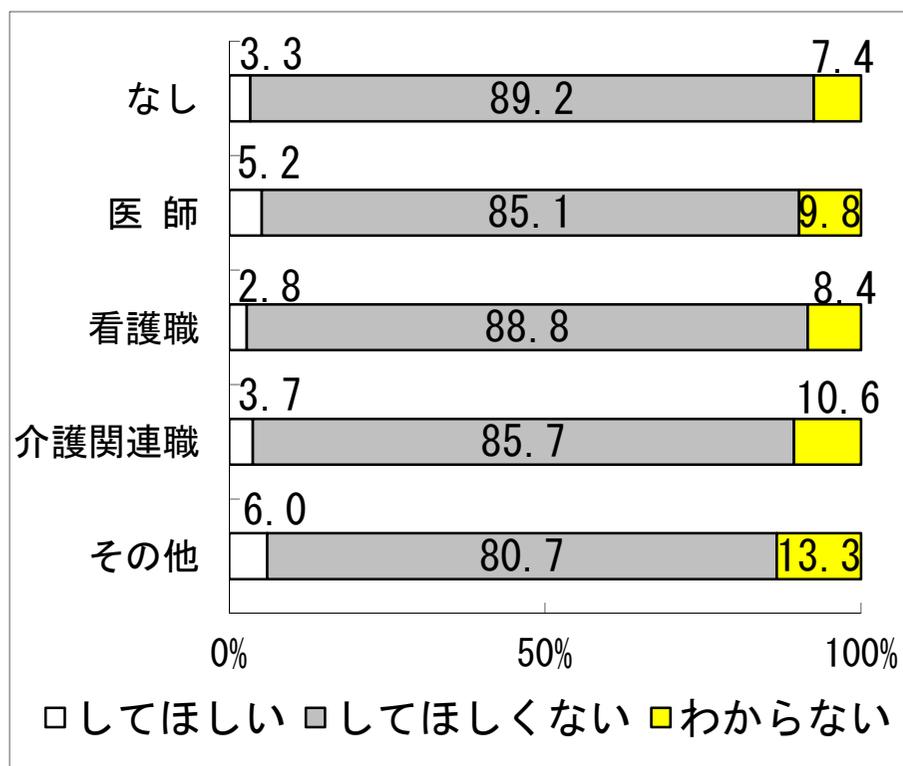
鼻チューブ してほしくない
40歳以上は9割前後



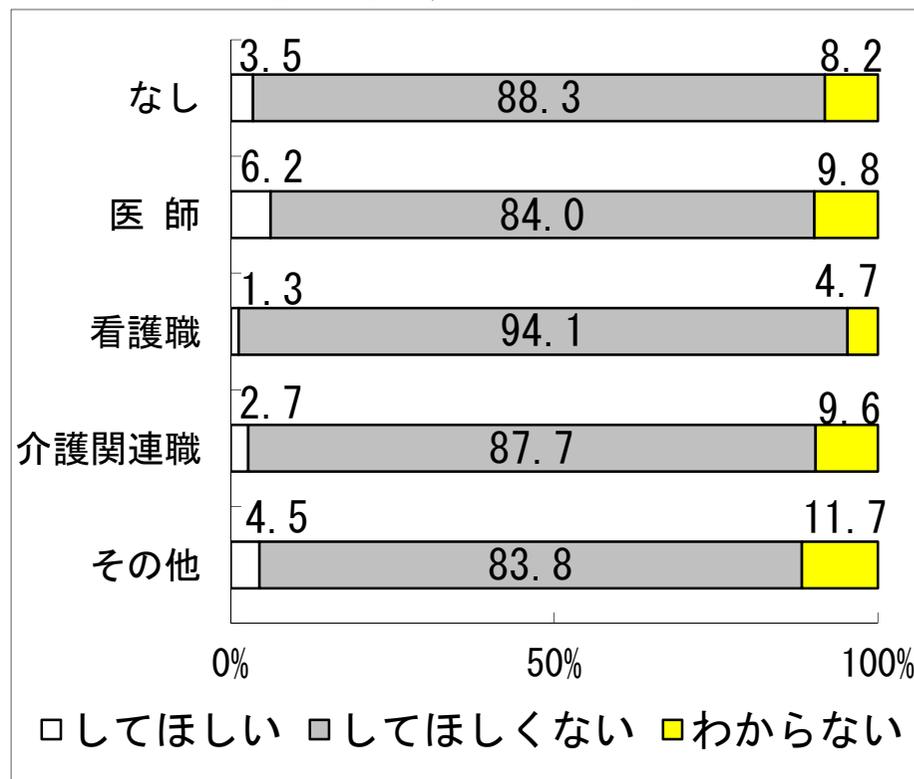
2 あなたが意思表示できない状態になり、さらに治る見込みがなく食べられなくなった場合

延命のために胃ろうによる栄養補給を望むか
 延命のため鼻チューブによる栄養補給を望むか（職業別）

看護職と無職は9割近くが
 胃ろうをしてほしくない



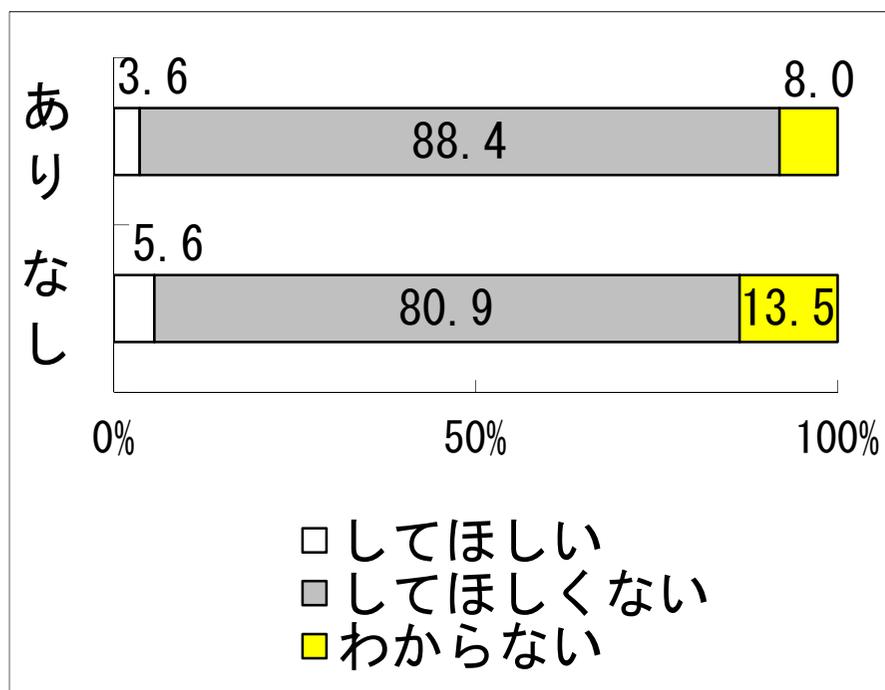
鼻チューブをしてほしくない
 医師と看護職の差は顕著



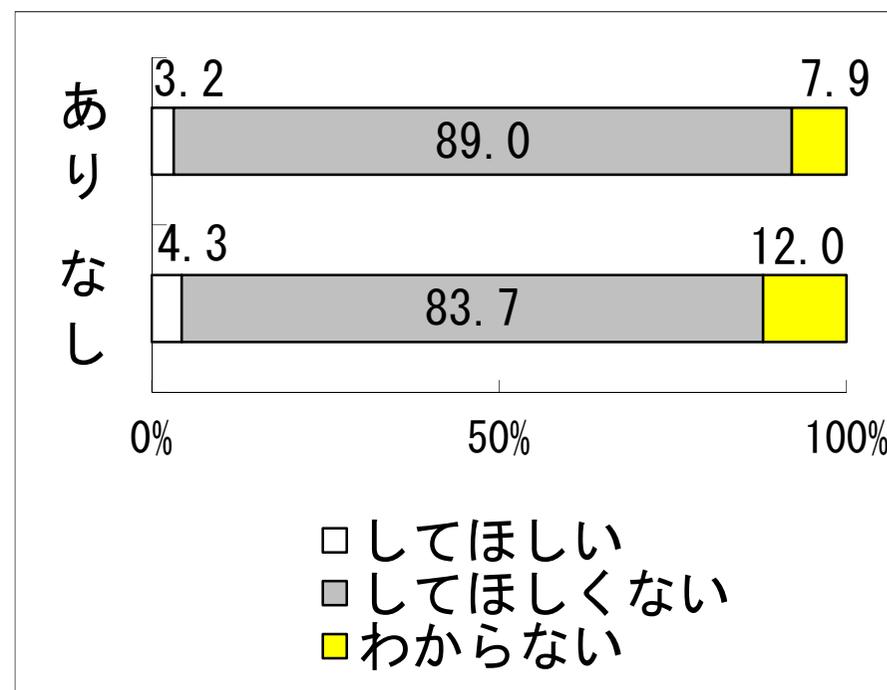
2 あなたが意思表示できない状態になり、さらに治る見込みがなく食べられなくなった場合

延命のために胃ろうによる栄養補給を望むか
延命のため鼻チューブによる栄養補給を望むか(看取り経験別)

胃ろう してほしくない
経験ありとなしの差 7.5ポイント



鼻チューブ してほしくない
経験ありとなしの差 5.3ポイント

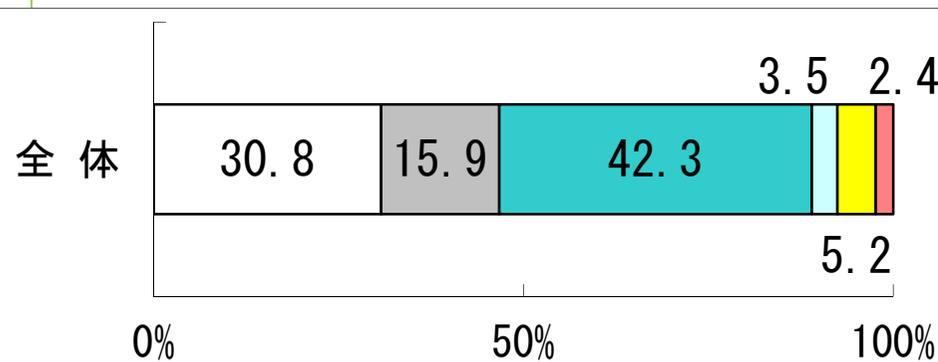


3 最期の医療について、あなたが望むことを家族と話し合ったことはあるか (全体)

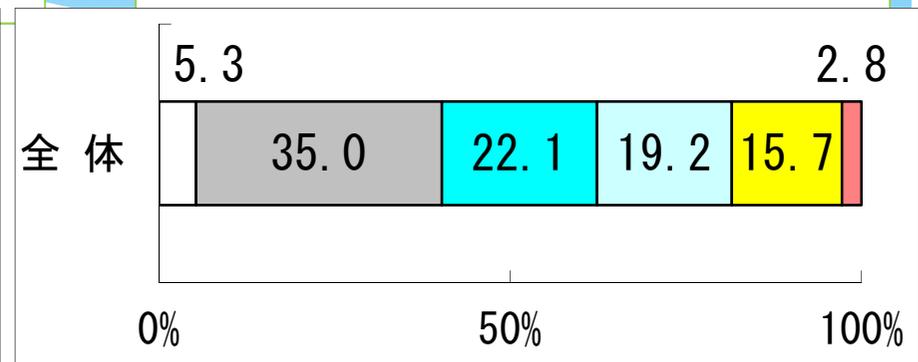
4 あなたが望む最期の医療について書面にしているか

自分が望む医療を伝えてある 30.8%

書面にしている 5.3%



- 話し合い、自分が望む医療について伝えてある
- 話し合ったことはあるが、自分が望む医療について伝えてない
- 話し合ったことはないが、これから話し合いたい
- 話し合うつもりはない
- わからない
- その他



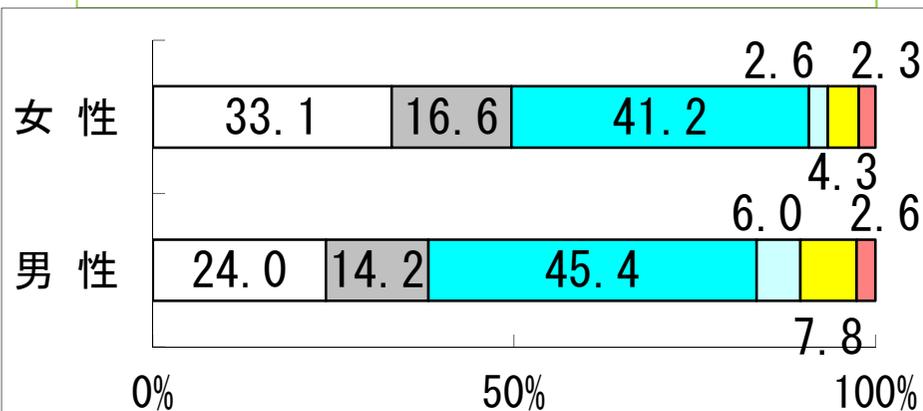
- 書面にしている
- これから書面にしたいと思う
- 書面にしたいが、どのようにすればよいか分からない
- 書面にしない
- わからない
- その他

3 最期の医療について、あなたが望むことを家族と話し合ったことはあるか (性別)

4 あなたが望む最期の医療について書面にしているか

自分が望む医療を伝えてある
女性3分の1 男性4分の1

これから書面にしたい
女性が男性を上回る



- 話し合い、自分が望む医療について伝えてある
- 話し合ったことはあるが、自分が望む医療について伝えてない
- 話し合ったことはないが、これから話し合いたい
- 話し合うつもりはない
- わからない
- その他



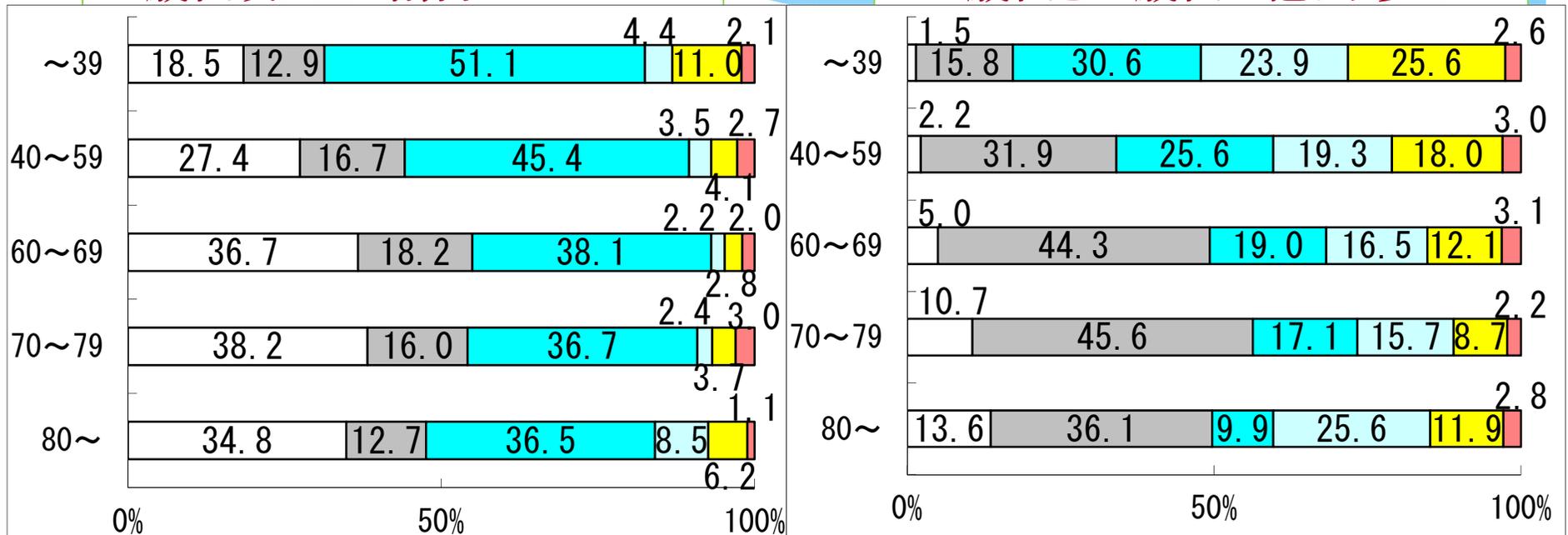
- 書面にしている
- これから書面にしたいと思う
- 書面にしたいが、どのようにすればよいか分からない
- 書面にしない
- わからない
- その他

3 最期の医療について、あなたが望むことを家族と話し合ったことはあるか (年齢別)

4 あなたが望む最期の医療について書面にしているか

自分が望む医療を伝えてある
60歳代以上は3割台

書面にしている
70歳代と80歳代が他より多め



- 話し合い、自分が望む医療について伝えてある
- 話し合ったことはあるが、自分が望む医療について伝えてない
- 話し合ったことはないが、これから話し合いたい
- 話し合うつもりはない
- わからない
- その他

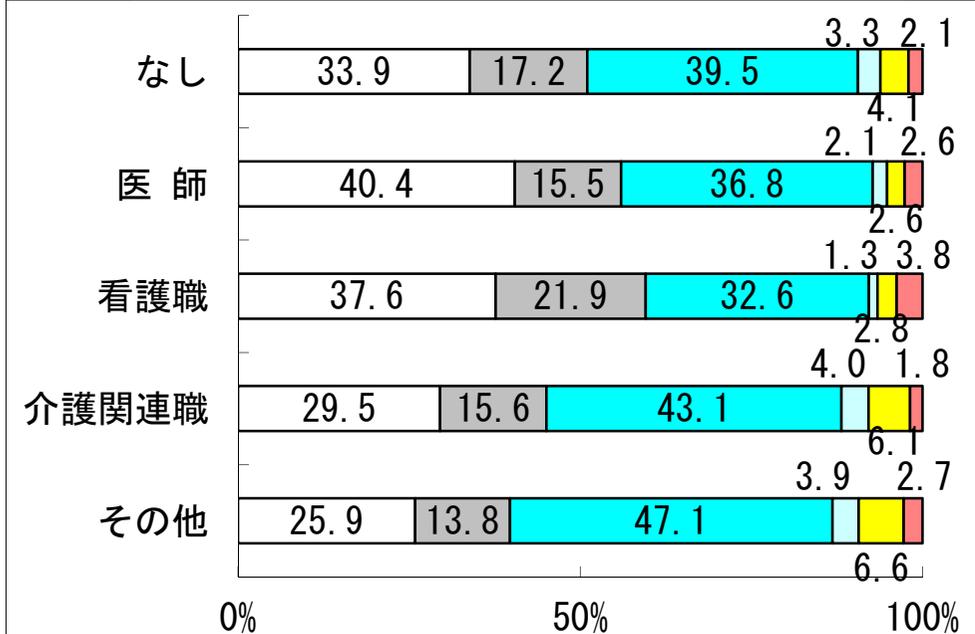
- 書面にしている
- これから書面にしたいと思う
- 書面にしたいが、どのようにすればよいか分からない
- 書面にしない
- わからない
- その他

3 最期の医療について、あなたが望むことを家族と話し合ったことはあるか (職業別)

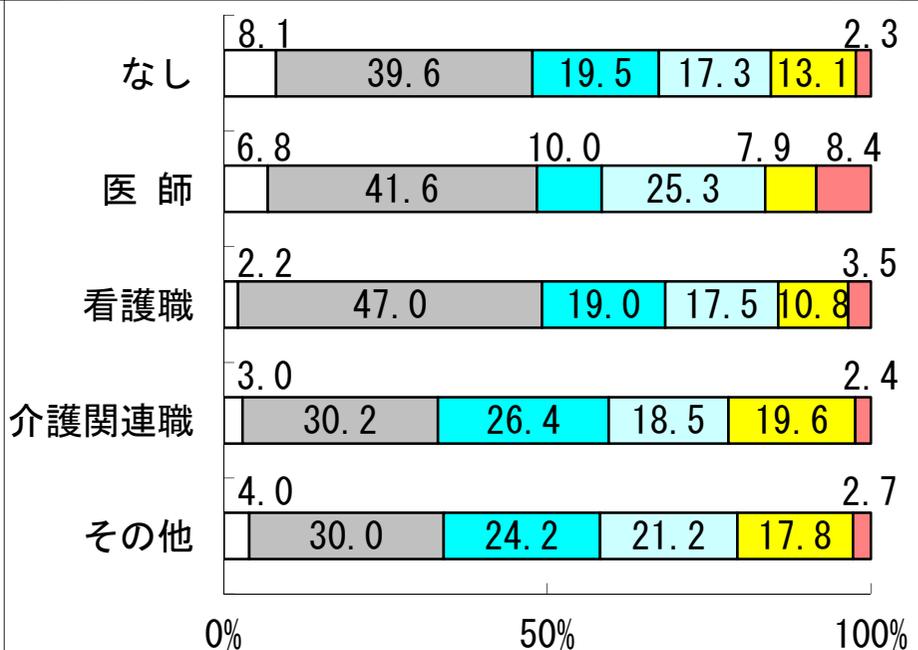
4 あなたが望む最期の医療について書面にしているか

自分が望む医療を伝えてある
医師と看護職が多く 約4割

これから書面にしたい
看護職、無職、医師は多い



- 話し合い、自分が望む医療について伝えてある
- 話し合ったことはあるが、自分が望む医療について伝えてない
- 話し合ったことはないが、これから話し合いたい
- 話し合うつもりはない
- わからない
- その他



- 書面にしている
- これから書面にしたいと思う
- 書面にしたいが、どのようにすればよいか分からない
- 書面にしない
- わからない
- その他

3 最期の医療について、あなたが望むことを家族と話し合ったことはあるか (看取り経験別)

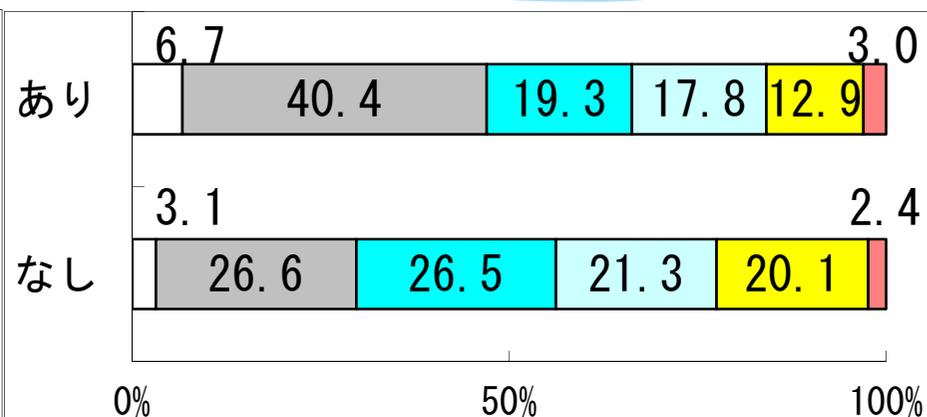
4 あなたが望む最期の医療について書面にしているか

自分が望む医療を伝えてある
経験ありとなしの差 12.4ポイント

これから書面にしたい
経験ありとなしの差 13.8ポイント



- 話し合い、自分が望む医療について伝えてある
- 話し合ったことはあるが、自分が望む医療について伝えてない
- 話し合ったことはないが、これから話し合いたい
- 話し合うつもりはない
- わからない
- その他



- 書面にしている
- これから書面にしたいと思う
- 書面にしたいが、どのようにすればよいか分からない
- 書面にしない
- わからない
- その他

自由記述の主な意見

調査票に「最期の医療についてご意見・ご経験をご自由にお書きください」という欄を設けたところ、数千人から意見が寄せられた。主な意見を以下に要約した。

(1) 家族間の意見の不一致

〈本人の思いと家族の思いは違う。医療関係者も。三者の意思疎通が必要〉

〈途中で親族の意見が分かれて困った〉

〈私は、延命は望まないが、家族の希望があればうけいれるかも〉

〈97歳の母がアンケートにあるような状況で同居の弟が延命を依頼し7か月。中止もできない。離れ住む私は反対だが（逆の例もあり）〉

〈102歳の母。同居の弟夫婦が何かあると救急車を呼び、治っている〉

〈複数の家族親族の合意が難しい〉

(2) 最近の医療側の変化

〈H21に父を送ったとき、病院は点滴ジャバジャバ、昼夜を問わず暴れると母に電話。縛られミトンをつけられ暴れないほうが不思議。H23同じ医師で母を送ったが、よく勉強していて往診、訪問介護・看護、家族の総力戦だった〉

〈10年前胃ろうを拒否すると“お父さんを殺す気か”となじられたが、最近は気持ちよく話し合いに応じてくれる〉

(3) 「延命」してもしなくても——家族の悩みは深い

〈母は尊厳死協会に入っており延命治療を拒否していたので酸素マスクだけで点滴もしなかった。家族としてはこれでよかったのか、と思いが残る〉

〈本人の尊厳を第一に考えるべきだが、残された家族はこれでよかったのか思い悩むことが多い〉

〈病院側から胃ろうを持ちかけられて応じたがあれでよかったのかと思う〉

(4) 命に対する認識「命は誰のもの」

〈本人の意思第一とはいえ、命は個人だけのものであると同時に社会的なもの。家族の希望もわかる。意識がなくて胃ろうなどで延命している場合、生きているだけで救われる人もいるはず。もし私の愛する人がそうなったら延命を望みます〉

一方で〈家族に迷惑をかけたくないから延命措置を望まない〉とする意見多数

(5) 本人の意思尊重のシステムを

〈本人の意思を書面にしたときは、それが実行できる半公的なシステムを〉

〈書いたとしても、倒れたときに自分がどう願うかは想像できない。柔軟に変更できる対応を〉

全体として延命によるみとり経験をした人を中心に、本人の意思で延命を行わない最期を求める声が圧倒的であった。一方、家族の死に関して、延命をしないでよかったのか、自分は家族の気がすむように、という声も若干あり、一人称の死、二人称の死の違いなど、社会的コンセンサスに至る道の問題点を知ることができた。

このアンケートを書くことによって、親子、夫婦の中で初めてまともに話し合うことができた、と感謝のことばをたくさんいただいた。一方、20人ぐらいのグループ集団で回答中、拒否した人が2人、途中で気分が悪くなって回答しきれなかった人2人、という報告もあった。生々しい体験直後の方であつたらしく、あらためて1人1人にとっての命の重さを痛感させられた。

自由記述の多くに、最期の医療措置、医療施設、在宅診療などについての的確な情報を望む声があり、政府はじめ関係機関はこの要望に応えていただきたいと願っている。